

感染症対策

感染症とは



小谷 洋子 先生



感染症とは

細菌、ウイルス、原虫などの病原体が体の中に侵入し、下痢や発熱などの症状が出ること



感染経路

ウイルスや細菌等がヒトや物を通じて体内に侵入



症状



感染成立



ウイルスや細菌から身を守るためには
感染源となる病原体を知ることが重要



細菌とは

- 他の細胞を利用せずに自力で増殖する
- 栄養、湿度、温度、pH、酸素などの環境が整えば、増殖する
- 多くの細菌は、高い湿度と35℃前後を最も好む
- 低温や乾燥状態にすると繁殖は止まるが、死滅しない
- 抗生物質が有効である



ウイルスとは

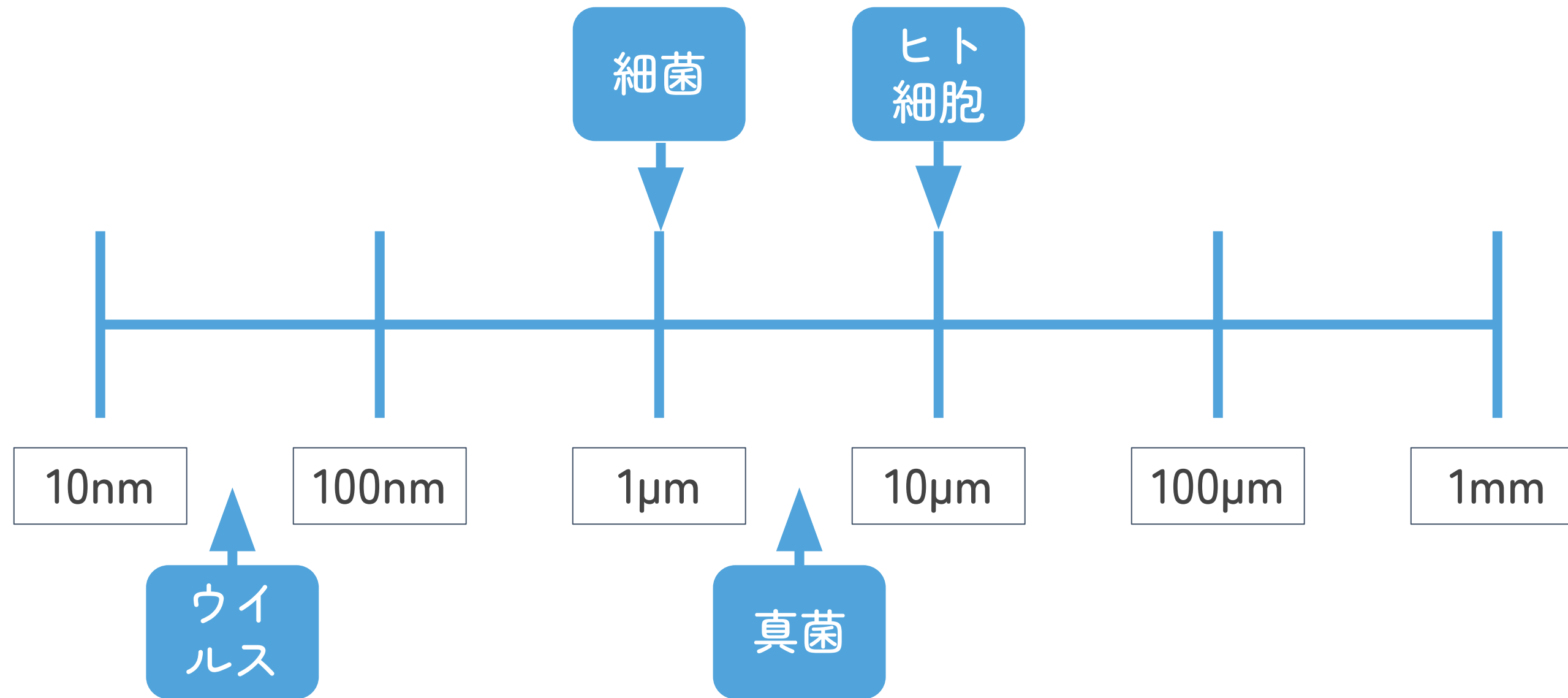
- 生きた細胞に寄生しないと繁殖できない
- ウイルスの種類によって寄生する細胞(部位)は異なる
- ウイルスに抗生物質は効果がない。
- 抗ウイルス薬(剤)は種類が少ない
- 一部のウイルスは、ワクチン接種で感染を予防できる



真菌とは

- カビ、酵母、きのこ類の総称である
- 自然界に広範囲で生息している
- 人に病原性のある一部の真菌が感染症を引き起こす
- 温かく、湿度の高い環境を好む
- 免疫力が低下している場合に発症しやすい

ウイルス・細菌とは



かいせん 疥癬とは

角化型疥癬
(ノルウェー感染)



通常疥癬



通常の疥癬は、ダニの数が1,000個体程度であるが、
角化型疥癬は100万～200万個体に達する



- 感染の経路
- 感染症の種類
 - 細菌
 - ウイルス
 - 真菌
 - 疥癬

感染症対策

高齢者にとっての感染症



小谷 洋子 先生



高齢者の身体的特徴

- 免疫力の低下
- 施設などで過ごす集団生活
- 慢性疾患などで悪化しやすい
- 栄養状態が良くないことがある
- 加齢の影響で臓器の機能が低下し栄養吸収率が下がる
- 症状を的確に表現できなかったり、熱や痛みに鈍くなっていることがある



高齢者にとっての感染症とは

- 重症化しやすい
- 治りにくい
- 治ってもADLの低下やフレイル発症のきっかけになる



- 高齢者にとっての感染症は危険である
- 感染症が治癒しても後遺症が残ることがある

感染症対策

どのように感染が広まるか



小谷 洋子 先生

どのように感染が広まるか



ウイルスや細菌はどこにいる？

尿・便

血液

痰・唾液

土

吐物

分泌物

膿



ウイルスや細菌はどこにいる？

- 排泄物（嘔吐物・便・尿など）
- 血液・体液・分泌物（喀痰・膿みなど）
- 使用した器具・器材（刺入・挿入したもの）
- 手指で取り扱った物品・食品



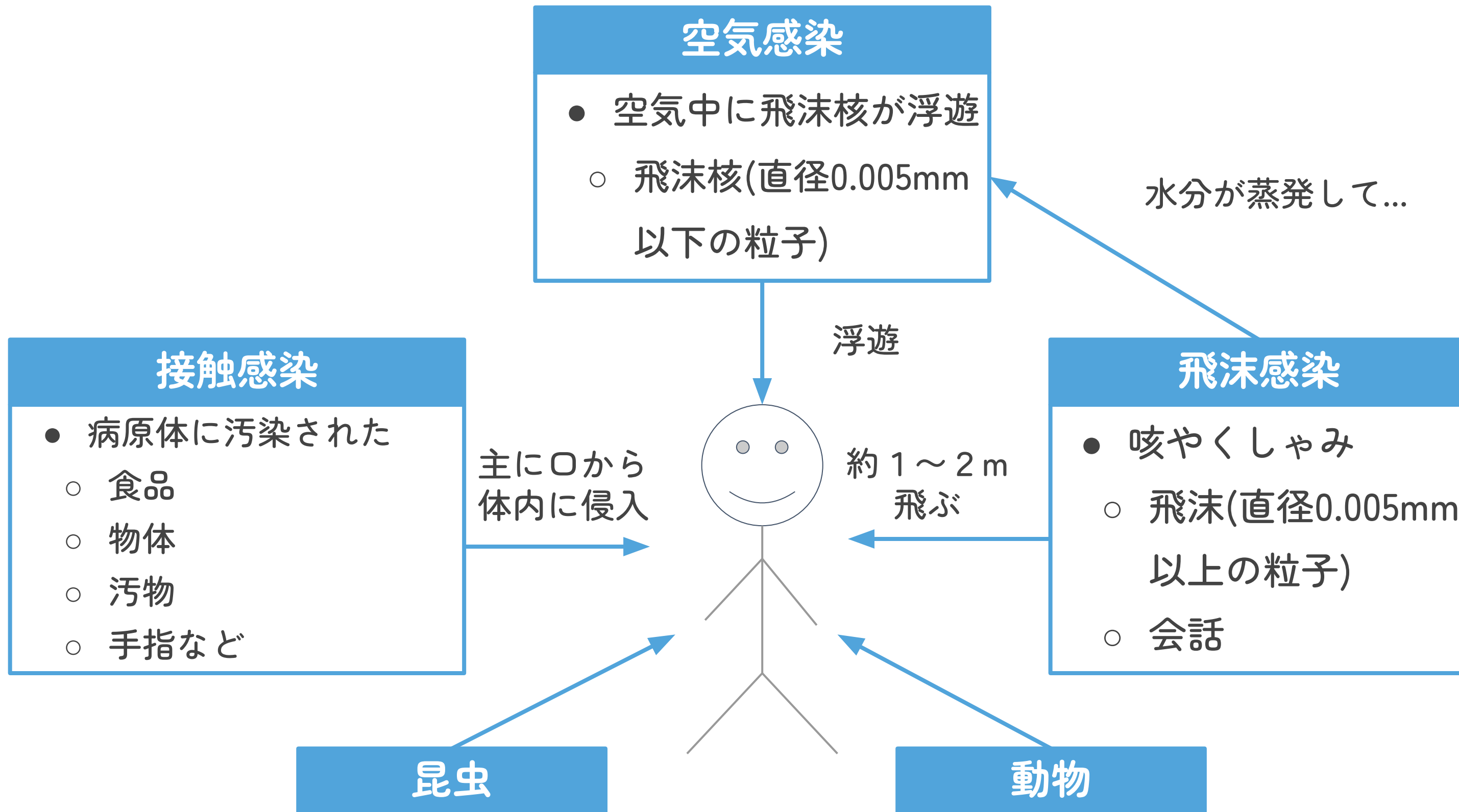
ウイルスや細菌にはどうやって感染する？

- 接触感染
- 飛沫感染
- 空気感染
- 血液媒介感染

どのように感染が広まるか



どうやって体内に入ってくる？



どのように感染が広まるか



感染経路	特徴	主な原因微生物
血液媒介感染	病原体に汚染された血液・体液・分泌物が針刺し事故等で体内に入ることにより感染	● B型・C型肝炎ウイルス ● ヒト免疫不全ウイルス（H I V）など



- 感染経路は複数ある
 - 飛沫感染
 - 経口感染
 - 接触感染
 - 空気感染

感染症対策

標準予防策 (スタンダードプリコーション)



小谷 洋子 先生



ウイルスや細菌はどうやって防ぐのか

病原体を...

持ち込まない

広げない

持ち出さない



標準予防策（スタンダードプリコーション）

感染対策の考え

- 全ての人々の湿性生体物質は、感染する危険性があるものとして取り扱う
- どの利用者に対しても、どのような場合においても実施する基本的な感染対策
- 粘膜、損傷皮膚に接触する場合は、湿性生体物質に暴露する機会となるため必ず感染対策をおこなう

参考：厚生労働省「感染対策の基礎知識 | 1 - 厚生労働省」 <https://www.mhlw.go.jp/content/000501120.pdf>（最終アクセス：2023.2.27）

湿性生体物質とは

血液、体液、分泌物（喀痰等）、嘔吐物、排せつ物、創傷皮膚、粘膜等



標準予防策（スタンダードプリコーション）

概念

1. 手指衛生
2. 防護具（手袋、マスク、ガウン）の適正な使用
3. 呼吸器衛生、咳エチケット
4. 鋭利器具の取り扱い
5. ケアに使用した器具の取り扱い
6. 廃棄物処理
7. 利用者配置
8. リネンの取り扱い
9. 環境整備

特に排せつ物、吐物の処理の際に注意が必要



感染症の有無に関わらず
普遍的に予防策をおこなう



- スタンダードプリコーションの基礎知識について
- 一人ひとりが適切な感染症対策をすることが大切

感染症対策

感染予防 (手洗い)



小谷 洋子 先生



感染しないためには持ち出さない



基本的な考え方

- 血液・体液・皮膚・粘膜等に接した場合は手袋の装着有無にかかわらず
 - 1 処置 1 手洗い
 - 手洗いには石けんを使用



手洗いのタイミング

患者に触れる前

清潔/無菌操作の前

体液に曝露された可能性のある場合

患者に触れた後

患者周辺の物品に触れた後



- 手洗いの大切さについて
- 正しい手洗いの方法と手順について

感染症対策

感染予防 (マスク・手袋・ガウン)



小谷 洋子 先生



ガウン・手袋・マスクの 正しい着脱方法



- ガウン・手袋・マスクの着脱方法にはルールが有る

感染症対策

感染予防 (衛生管理)



小谷 洋子 先生



平常時の衛生管理

- 施設内の環境の整備
- 清潔/整理整頓/清掃
- 洗面所/トイレ/ドアノブ/ロッカールーム/職員食堂など
- トイレの個室はエアロゾル感染を引き起こす可能性がある



日常の観察

- 異常の兆候をできるだけ早く発見する
 - 健康状態はどうか
 - 体の動きはどうか
 - 声の調子・大きさに変化はないか
 - 食欲はあるか
 - 体温は平常か



早期発見のための日ごろの観察ポイント

観察点	具体例
便の症状・回数	軟便が続く、水様性の下痢や血便がある場合
発熱の有無	明らかな発熱 微熱でも発疹・嘔吐・下痢・のどやリンパの腫れをともなう場合
皮膚の状態	発赤、発疹
目の状態	眼脂、結膜の充血、涙目、眼瞼腫脹
耳の状態	耳だれ
口の状態	口内炎
痰の状態	量・色の変化
床ずれ	大きさ・色・においの変化
その他の異常	嘔吐、ひどい咳、食欲がない



職員として

- 自分の健康管理（感染源、媒介者にならない）
- 感染に対する知識（予防、発生時の対応）の習得と日常業務における実践
- 利用者の健康状態の把握



- 平常時における感染予防について
- 感染症の早期発見するための観察ポイント
- 一人ひとりが正確な感染予防策をすることが大切